

平成 26 年度 県立阪神昆陽高等学校 学校関係者評価

1 保護者・地域等への情報発信等について	
成果	中学生やその保護者対象に、夏秋 2 回のオープンハイスクールや募集要項説明会、平日夕方のトワイライト説明会（11 回）を実施した。また、育友会と連携した学校周辺の清掃活動、6、7 月に実施した全職員での地域巡回指導、近隣の幼稚園・小学校や宮ノ北団地へのパンジーのプランター配布、地域住民を招いた地域ふれあい調理交流会、池尻地区ヤングフェスティバルへのダンス部・吹奏楽部の参加等、地域貢献活動を通じて地域住民が本校や本校生への理解を深めてもらえる機会を設けた。
課題	中学生や地域住民に本校の特色、生徒の実態、生徒指導の在り方等、本校についての理解をより深めていくためには、どのような取組が考えられるか。
学校関係者評価委員の意見	○オープンハイスクール、説明会等で情報発信・提供に積極的に取り組んでいる。地域住民の人間関係が希薄になり自治会の機能も低下しており、地域が子供を守れなくなっている。そのため、地域住民に本校理解を進めていくためには相当な時間を要すると思われるが、継続して取り組んでいただきたい。 ○保護者・地域等への情報発信は本当によくされている。職員の荷重にならずにできる方法として、公開授業参観は学校の実態を見ていただくいい機会だ。

2 生徒指導の充実について	
成果	人間的なふれあいに基づく生徒指導を全職員で組織的に行ってきた。その結果、4 月から 7 月までと違い、秋以降は生徒がずいぶん落ち着いた学校生活を送れるようになった。また、中学で 1 学年でも 30 日以上欠席のある者のうち前期末までの欠席が 10 日未満が 42.9%、兵庫県立の定時制高校の 1 年での退学率が 27.8% に対して本校 10.5% と、不登校の改善や退学率の低さで成果が上がった。
課題	①人間的なふれあいに基づく生徒指導という本校の指導方針について、一部の職員にこれでよいのかという意見がある。 ②日常の授業態度はかなり改善されているが、生活体験発表会や芸術鑑賞会、薬物乱用防止講演会等、大きな集団になった時の態度やマナーに大きな課題がある。
学校関係者評価委員の意見	○不登校が改善され退学率が低いということは生徒指導の大きな成果である。しかし、生徒指導体制の充実に関する学校自己評価点は僅かではあるが平成 24 年度からは低下傾向を示している。指導が困難な生徒が多くいる中、職員の多忙感などの負担を軽減する工夫が必要である。 大きな集団になったときの態度やマナーに課題があるのは、生徒の比較的共通した特性があるように思われる。受講、鑑賞等においてはその環境の設定にも工夫の余地はないか。 ○先日ノーマライゼーションの発表会を見に行かせてもらった。生徒指導は大変良くされている。ただ、3 部と 1・2 部は違い全日制に近い生徒が多いので、1・2 部の生徒の指導は少し考え直した方がいいかもしれない。ダメなものはダメと言わないと、生徒はそれでよいと思いきやに流れる。逆に生徒に注意を継続して行うことで、生徒の行動は改善される。社会で通用する人間を育てることが大事である。

3 キャリア教育・進路指導体制の充実について

<p>成果</p>	<p>総合的な学習の時間を活用して、1年次から3年次までのキャリア教育を組織的かつ計画的に行った。さらに、様々な分野の講師を招いた職業別ガイダンスや17名の生徒を9の事業所に派遣したインターンシップにより、生徒の進路意識を高めるとともに、将来の希望を広げることができた。また、進路指導研修会や進路指導情報交換会を年6回実施して担任の指導力の向上と情報共有を図った。これらの取組により3月3日現在で、15名が就職内定し、37名の進学が決定した。</p>
<p>課題</p>	<p>3年次生になると進路を意識し、生活態度や学習意欲が向上してくるが、1年次生や2年次生の自分の将来に対する意識がとても低い。早い段階から将来の進路についての意識を高めるために、今後どのようなキャリア教育の取組が考えられるか。</p>
<p>学校関係者評価委員の意見</p>	<p>○卒業後にフリーター、ニートになる可能性を少しでも減少させるために、早期の段階から卒業生の講話（業種や性別、転職経験の有無などを考慮）を取り入れたり、インターンシップへの参加を図る。また、卒業後も相談希望のある卒業生に対しては進路指導部で指導や助言を行う窓口を設けるなど、比較的長い期間にわたる支援も検討する。</p> <p>個別的な指導や支援が必要な課題を抱えた生徒に目が向きがちであるが、大学進学希望の生徒、学力の高い生徒に対しても彼らのニーズに応えられる授業、補講及び進路指導を行うよう心掛けたい。</p> <p>○進路保障をしっかりとやり、生徒に夢を与えることで学校は落ち着く。しかし、前任校では欠席日数が多くても指定校推薦で大学に進学し、授業についていけず中退する生徒もいた。中退してでも、社会に出てアルバイトでもできればよいが、また引きこもりになる生徒が10や20ではない。高校時代をどう過ごさせるかそのものがキャリア教育だ。指定校推薦で欠席日数に制限を設けるなど、頑張った生徒が報われるようなシステムをつくることも必要である。</p>